

東京都周辺におけるワカケホンセイインコの分布と繁殖環境

○藤井 幹¹ 児玉拓也² 島田結子² 高橋 亮² 塚田直樹² 池田威秀³ (1 日本鳥類保護連盟, 2 東京コミュニケーションアート専門学校, 3 東京工業大学)

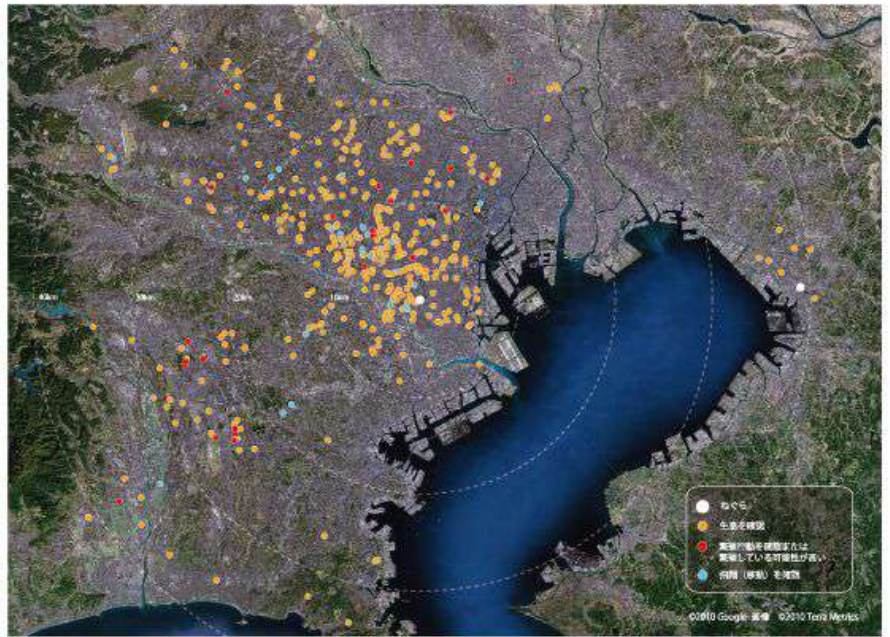


関東地方における3つのグループ

ワカケホンセイインコ *Psittacula krameri manillensis* はホンセイインコ *P.krameri* の1亜種で、この亜種の原因はインド南部やスリランカなどである。本種はヨーロッパ、アジア、アフリカ、北アメリカやハワイ諸島など、世界各地で帰化が確認されている。

日本でも同様に帰化が確認されており、1960年代にペットブームに乗じて大量に輸入されたことがきっかけとされている。かご抜けや故意による放鳥、業者から大量に逃げ出したなど、いろいろな原因が重なり、1969年以降、全国各地でワカケホンセイインコの個体群が確認された。その後、多くの個体群は衰退し、現在、群として確認されているのは関東地方のみと考えられる。

関東地方では、東京都にある東京工業大学（東工大）をめぐらして、神奈川県、埼玉県までを分布域とする大きなグループのほか、群馬県、千葉県にも少数のグループがあり、計3つのグループが確認されている。

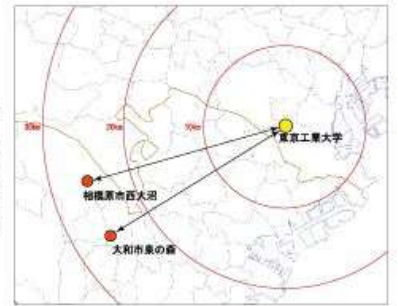


東京都を中心としたグループと千葉県を中心としたグループの分布情報。

東工大をめぐらしていることの確認

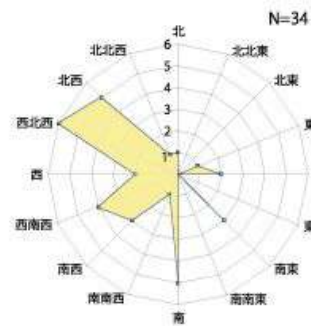


東工大から約25km離れている大和市や相模原市の繁殖地では、発信器の装着により、めぐらのある東工大から繁殖地まで、雄は毎日通っている事が確認されている。また、巣立ったヒナも東工大へ移動する事が確認されている。

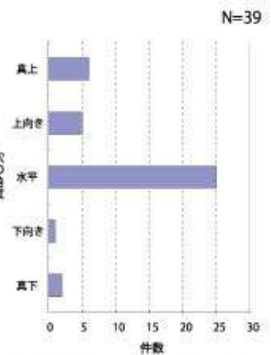


繁殖環境

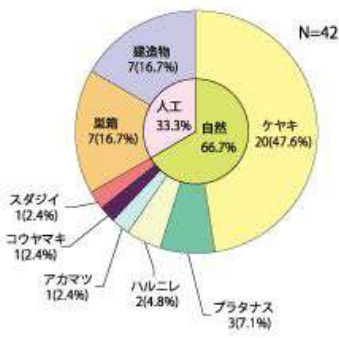
繁殖は、樹洞のほか、建造物にある穴や隙間など、ムクドリと競合する環境を利用している。また、場所によってはアオバズクとも競合する場合がある。これまで繁殖行動が確認された。または繁殖している可能性が高いとされている場所で、位置が把握できているのは25箇所であるが、同じ木で、または同地で複数番が営巣している場合が多いため、25箇所から42番の繁殖行動が確認されている。ここではこの42番から得られた情報を整理した。めぐらにおける年間の個体数変動から推測して、おおよそ400番が営巣している可能性があるため、ここで取りあげているのは全体の10%程度の情報と考えられる。



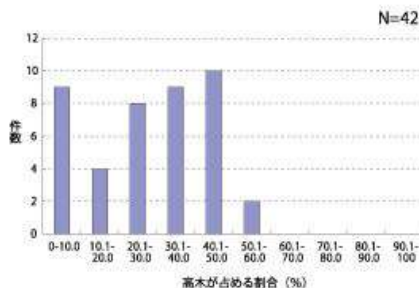
穴の方角



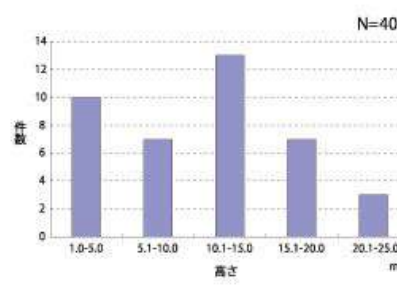
穴の角度。上向きや真上に空いた穴も使用している。



営巣場所



営巣場所から半径100m内において高木が占める面積の割合。航空写真より概測。



営巣する穴までの高さ

ワカケホンセイインコの情報を集めています！

飛んでいるのを見かけたというだけでもかまいません。見かけた方は下記まで是非ご連絡下さい。

〒166-0012
東京都杉並区和田 3-54-5, 3F
財団法人 日本鳥類保護連盟
調査室 藤井 幹
TEL: 03-5378-5691
FAX: 03-5378-5693
e-mail: fujii@jspb.org